

平成 30 年度 第 2 回 情報共有基盤 技術検討ワーキンググループ
議事要旨

日時：2018 年 11 月 22 日(木) 10:00-12:00

場所：経済産業省 別館 2 階 235 会議室

出席者：

【主査】

武田 英明 主査

【委員（50 音順）】

小田 利彦 委員

加藤 文彦 委員

坂下 哲也 委員

高木 祐介 委員

早矢仕 晃章 委員

【オブザーバー】

三田 智史

【事務局】

平本 健二(経済産業省)

酒井 一樹(経済産業省)

田代 秀一(IPA)

日向 英俊(IPA)

議題：

(1) 進捗報告

(2) 課題と今後の対応について

(3) 連絡事項

配布資料：

- (1) 【資料 0】議事次第
- (2) 【資料 0-1】委員名簿
- (3) 【資料 0-2】席次表
- (4) 【資料 1】技術検討 WG（第二回）事務局報告
- (5) 【参考資料 1】普及戦略 TF の議論
- (6) 【参考資料 1】2018 年 11 月 15 日 技術ポリシータスクフォースの議事メモ

議事概要：

1. 進捗報告

【資料 1】「技術検討 WG（第二回）事務局報告」に基づき、第一回WGで課題とされた事項についての対応状況と第一回WG以降に組成された各タスクフォース（以下、TF）の活動状況について報告が行われた。

＜主なご意見＞

- ユーザー支援という切り口において、IMI をどう利用しようとしているのか、またどのようにユーザー支援していこうとしているのか教えて頂きたい。
- 利用促進 WG の方では全体の方向性を、”対自治体”、”対民間”と大きく二つに分けて検討しようという話になっている。また純粋な民間データの問題をどこまで含むかというところも議論のポイントとなっている。
- パートナー説明会では彼らの疑問や問題意識を集める事が出来た。過去の技術検討の中で十分検討された上で決定されている事が、文書化されていない事で、そのことが伝わっていない事が分かった。また、そもそも語彙をどう選ぶのかという事について、開発側もまだ課題を解いていないような問題もあった。
- ユーザーの声として、「”工場”を定義する時に、これは”施設”なのか”建物”なのか？」とか「住所を書く時、”表記”の部分と”分かち書き”の部分をどう使うのか？」等があったが、確かに、どういう理由でそのクラスが出来ているのか等、そういった意図的な事はどこにも記述されていない。色々用意はしてあるけれど、外側から見たら、どう使い分けるのか分からないというのはその通りだと思う。
- ユーザー側からすると、拡張というのも重要で「こういう時にはこのコア語彙を拡張して下さい」というような情報も必要。
- パートナー会議にて、サンプルデータが欲しいという意見もあった。
- 少なくとも、schema.org では各クラス毎の説明の中にサンプル例が示してある。せめてこれくらいの情報が無いと、利用者には分からないと思う。

2. 課題と今後の対応について

【参考資料 1】「普及戦略 TF の議論」に基づき IMI の普及戦略や中期ロードマップについて説明が行われた。

その後、【資料 1】11 ページ、12 ページに基づき、コア語彙の改定やドメイン語彙のネームスペース等について、説明が行われ、それについての議論が行われた。

＜主なご意見＞

- ドメイン語彙に関しては管理主体が必要だが、法人ドメイン語彙に関しては経産省が管理主体となる。
- ドメイン語彙にサブドメインのような階層性はシステム上設計していない。
- 今年度は、最低限「法人インフォ」で利用できる法人ドメイン語彙を暫定的に作成するが、来年度以降は「法人インフォ」以外からも使ってもらえるような語彙を法人ドメインに追加していくという構想。
- ドメイン語彙の決め方について、トップダウンではなく提案ベースのボトムアップ型を採用し、IMI 側はそれが十分に汎用性のあるドメインであるという事を追認するようなプロセスを提案中。
- ドメイン語彙の提案から決定までの一連のプロセスを決める為には、どのような検討体制や管理体制が必要かという事を検討する必要がある。少なくとも年度末に開催される推進委員会でこれについては議論される必要がある。
- 優先順位としては承認プロセスよりも、ドメイン語彙の作成に関するチェックリストもしくはガイドラインが先にあった方がよい。

国際標準化 TF 関連のコメントがあり、それについての議論が行われた。

＜主なご意見＞

- 國際標準について、ISO/IEC JTC1 SC32 での検討を予定している。
- 語彙記法を提案するという事で W3C とは狙っているレイヤーが少し違う。広くデータベース一般の規格について扱っているのが SC32 なので、こちらの方がより幅広く波及できるのではと思っている。
- 今は ISO をターゲットとしているが、まだ正式に提案している訳ではないので、W3C の方も模索してみるというのも今の段階ではまだ可能。
- 仙台で開催された SC32WG2 で、IMI 語彙記法の概要を紹介した。IMI 語彙記法はデータの概念スキーマを書くのに特化した非常にシンプルな記法であり、これだと簡単に書けるという事で、結構評判が良かった。
- 國際標準化について経産省側の意見としては、途中でやめましたという話になると我々の信頼にも関わるので、冷静に判断してほしい。

評価手法 TF 関連のコメントがあり、それについての議論が行われた。

＜主なご意見＞

- IMAPS 関係の資料を揃えたので、どういう評価指標があるのかというところをスプレッドシートにまとめて、次の TF の議論のたたき台にする。
- IMAPS は我々から見ると的外れなものが多い。むしろ SIMAPS の方が、我々が狙っているものに近い。ただ、問題は SIMAPS が今年どうなるか全く見えないという事。
- SIMAPS の観点に加えて、DTA さんで始めようとしているようなデータの精度や品質みたいなところを含めた、二面性が必要。

3. 合意事項

- (ア) コア語彙に関する説明ドキュメント作成が次の重要課題である。
 - (イ) 年度内にドメイン語彙の暫定運用案を作成するというのを目標とする。
 - (ウ) ドメイン語彙の作り方検討も課題とする。

4. その他

- (ア) 議事録・議事要旨を委員へ展開する。
- (イ) 次回の技術検討 WG は 2019 年 2 月を予定。
- (ウ) 技術ポリシー TF への DTA 参加メンバーを調整する。